

学位論文要旨


氏名 古江 康明



論文題目

「Effectiveness and safety of endoscopic aspiration mucosectomy and endoscopic submucosal dissection in patients with superficial esophageal squamous-cell carcinoma (表在型食道扁平上皮癌に対する内視鏡的吸引粘膜切除術と内視鏡的粘膜下層剥離術の安全性と有効性に関する検討)」

指導教授承認印

小泉和之郎 

Effectiveness and safety of endoscopic aspiration
mucosectomy and endoscopic submucosal dissection in
patients with superficial esophageal squamous-cell
carcinoma

(表在型食道扁平上皮癌に対する内視鏡的吸引粘膜切除術と内
視鏡的粘膜下層剥離術の安全性と有効性に関する検討)

氏名 古江 康明

(以下要旨本文)

背景：近年、表在型食道扁平上皮癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)は広く普及している。一方、内視鏡的吸引粘膜切除術 (EAM)はより簡便に行える治療手技である。我々は後方視的に安全性と有効性を評価して、EAM と ESD の長所と短所を明らかにすることにした。

方法：内視鏡的切除が施行された 372 例 421 病変を後方視的に以下の項目について評価した。1) 安全性に関する検討項目を処置時間、有害事象とした。2) 有効性に関する検討項目を一括完全切除率、局所再発率、リンパ節再発率、全生存率、疾患特異的生存率とした。

結果：EAM は 134 例 149 病変、ESD は 240 例 274 病変に施行した。処置時間は EAM が有意に短かった (EAM vs.ESD=31.0±22.4mm vs. 85.7±46.5mm, p<0.001)。穿孔率は ESD に有意に多かった (EAM vs. ESD=0 vs. 6.2%, p=0.002)。一括完全切除率は ESD が有意に高かった (EAM vs. ESD=48.3 vs. 91.6%, p<0.001)。局所再発率は EAM が有意に高かった (EAM vs. ESD=5.5 vs. 0%, p<0.001)。15mm 未満の病変では、EAM の一括完全切除率は比較的良好であり (EAM vs. ESD=76.1 vs. 100%, p<0.001)、処置時間は有意に短かった (EAM vs. ESD=25.2±15.2mm vs. 62.7±35.2mm, p<0.001)。

結語：ESD は EAM よりも一括完全切除率が高く、局所制御効果に優れている。15mm 未満の病変においては、EAM は治療の選択肢の一つとなりうる。